

# 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小田原市の結果について

## 1 調査の目的

本調査は、国が全国的な子供の体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的とする。

加えて、教育委員会や学校においても、本調査結果を活用し、子供の体力や運動習慣等の状況を把握するとともに、課題に対応した施策の実施や体育・保健体育の授業等の充実・改善に役立てることを目的とする。

## 2 調査対象：小学5年、中学2年

## 3 調査事項及び内容

### (1) 実技調査・・・新体力テスト（8種目）

- ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび ⑤20mシャトルラン又は持久走 ⑥50m走  
⑦立ち幅とび ⑧ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）

### (2) 児童生徒に対する質問紙調査・・・運動習慣・生活習慣等に関する項目

### (3) 学校に対する質問紙調査・・・子供の体力向上に係る取組等に関する項目

## 4 調査実施日

### (1) 実技調査・・・令和5年4月～令和5年7月

### (2) 質問紙調査（児童生徒用、学校用）・・・令和5年7月

## 5 実技調査の結果

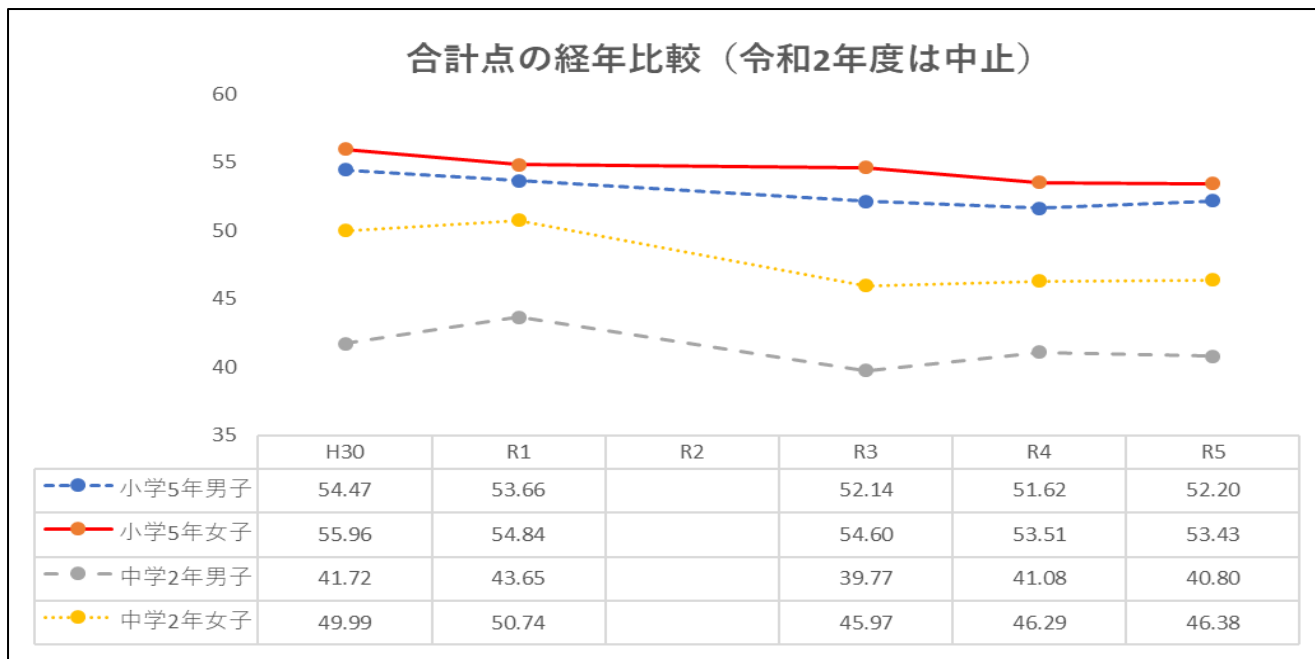
### (1) 体力合計点（平均）の経年比較【資料1】

	小学5年						中学2年					
	男子			女子			男子			女子		
	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国
R5	52.20	52.25	52.59	53.43	53.29	54.28	40.80	40.84	41.32	46.38	45.90	47.22
R4	51.62	52.27	52.28	53.51	53.63	54.31	41.08	41.49	41.04	46.29	46.75	47.42
R3	52.14	52.41	52.52	54.60	53.62	54.64	39.77	40.31	41.18	45.97	46.56	48.56
R2	新型コロナウイルス感染拡大のため中止											
R1	53.66	53.17	53.61	54.84	54.25	55.59	43.65	41.71	41.69	50.74	49.66	50.22
H30	54.47	53.68	54.21	55.96	54.61	55.90	41.72	40.82	42.32	49.99	48.23	50.61

※体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して合計した点数

## (2) 小田原市児童生徒合計点の経年比較【資料2】

(単位：%)



## (3) 判定分布の経年比較（男女平均値）【資料3】

(単位：%)

小学5年	A (65~80)	B (58~64)	C (50~57)	D (42~49)	E (41以下)	D・E 合計	R5全国 D・E 合計
R5	10.9	21.1	32.6	23.4	11.9	35.3	32.5
R4	9.5	21.6	33.1	23.3	12.7	35.9	
R3	10.3	22.8	33.0	22.4	11.6	34.0	
R1	12.4	25.5	33.4	20.1	8.6	28.7	
H30	14.0	27.7	34.1	17.9	6.3	24.2	
中学2年	A (57~80)	B (47~56)	C (37~46)	D (27~36)	E (26以下)	D・E 合計	
R5	13.8	28.0	30.7	20.4	7.0	27.4	25.9
R4	15.7	25.0	30.8	22.1	6.4	28.5	
R3	7.1	22.6	32.9	25.4	12.1	37.5	
R1	21.4	32.0	30.1	11.9	4.6	16.5	
H30	19.4	29.5	30.3	16.0	4.8	20.8	

※判定基準：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して合計した点数を、括弧（ ）の基準によりAからEの5段階で判定します。

※四捨五入した元データ値（スポーツ庁集計データ）を用いて男女平均値を小数第2位で切り捨てしていることから、A～Eの百分率の値の総和が100にならない場合があります。

- 【資料1】小田原市の児童生徒の体力合計点（平均）は、令和4年度と比較して、小学5年男子と中学2年女子で少し上回る結果となりましたが、全国平均と比較すると下回っています。また、【資料2】経年で比較しても、コロナ禍以前の水準よりも低い数値が続いています。
- 【資料3】体力判定分布（AからEの5段階で判定）の結果、D・E判定の児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均との比較では引き続き多いものの、昨年度と比較すると減少しました。
- 【資料3】中学2年では、コロナ禍の影響を最も受けた令和3年度以降、D・Eと判定された生徒の割合は少しずつ減少しています。

(4) 種目ごとの平均値【資料4】 \*T得点:全国平均値を50点とした時の相対的な得点を示すもの(■は全国比+)

小学5年	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力(kg)	16.20	16.61	16.13	50.2	15.85	16.36	16.01	49.6
上体起こし(回)	19.09	19.24	19.00	50.1	18.61	18.10	18.05	51.0
長座体前屈(cm)	34.90	35.03	33.98	51.0	38.94	39.59	38.45	50.5
反復横とび(点)	39.28	38.66	40.60	48.4	37.16	36.08	38.73	47.9
20mシャトルラン(回)	46.36	44.38	46.92	49.7	34.65	32.82	36.80	48.7
50m走(秒)	9.45	9.47	9.48	50.3	9.64	9.72	9.71	50.7
立ち幅とび(cm)	143.34	149.20	151.13	46.7	137.17	141.46	144.29	46.8
ソフトボール投げ(m)	20.97	20.06	20.52	50.6	13.37	12.92	13.22	50.3
<b>体力合計点(点)</b>	<b>52.20</b>	<b>52.25</b>	<b>52.59</b>	<b>49.6</b>	<b>53.43</b>	<b>53.29</b>	<b>54.28</b>	<b>49.1</b>
中学2年	男子				女子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力(kg)	28.79	28.78	29.02	49.7	23.02	23.00	23.15	49.7
上体起こし(回)	26.37	25.87	25.82	50.9	21.87	21.14	21.62	50.4
長座体前屈(cm)	46.04	44.77	44.16	51.7	46.37	46.61	46.27	50.1
反復横とび(点)	48.95	49.70	51.22	47.4	43.18	44.03	45.65	46.6
持久走(秒) <small>—部分の実施</small>	409.32	412.34	409.02	50.0	320.07	312.62	306.26	47.2
20mシャトルラン(回)	73.90	77.13	78.07	48.4	46.91	47.89	50.70	48.1
50m走(秒)	7.95	7.97	8.01	50.6	8.91	8.93	8.95	50.5
立ち幅とび(cm)	195.16	195.10	197.02	49.4	159.67	162.88	166.34	47.5
ハンドボール投げ(m)	21.14	20.13	20.40	51.2	13.37	12.10	12.43	52.2
<b>体力合計点(点)</b>	<b>40.80</b>	<b>40.84</b>	<b>41.31</b>	<b>49.5</b>	<b>46.38</b>	<b>45.90</b>	<b>47.22</b>	<b>49.3</b>

- 【資料4】項目(種目)別で見ると、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びの測定値について、全国平均と比較して全ての学年で低い値となっています。特に、反復横とびと立ち幅とびは低い値となっています。
- 【資料4】上体起こし、長座体前屈、50m走、ソフトボール・ハンドボール投げの測定値が全国平均と比較して全ての学年で高い値となっています。特に、中学2年のハンドボール投げは全国平均より高い値となっています。

## 6 質問紙調査の結果

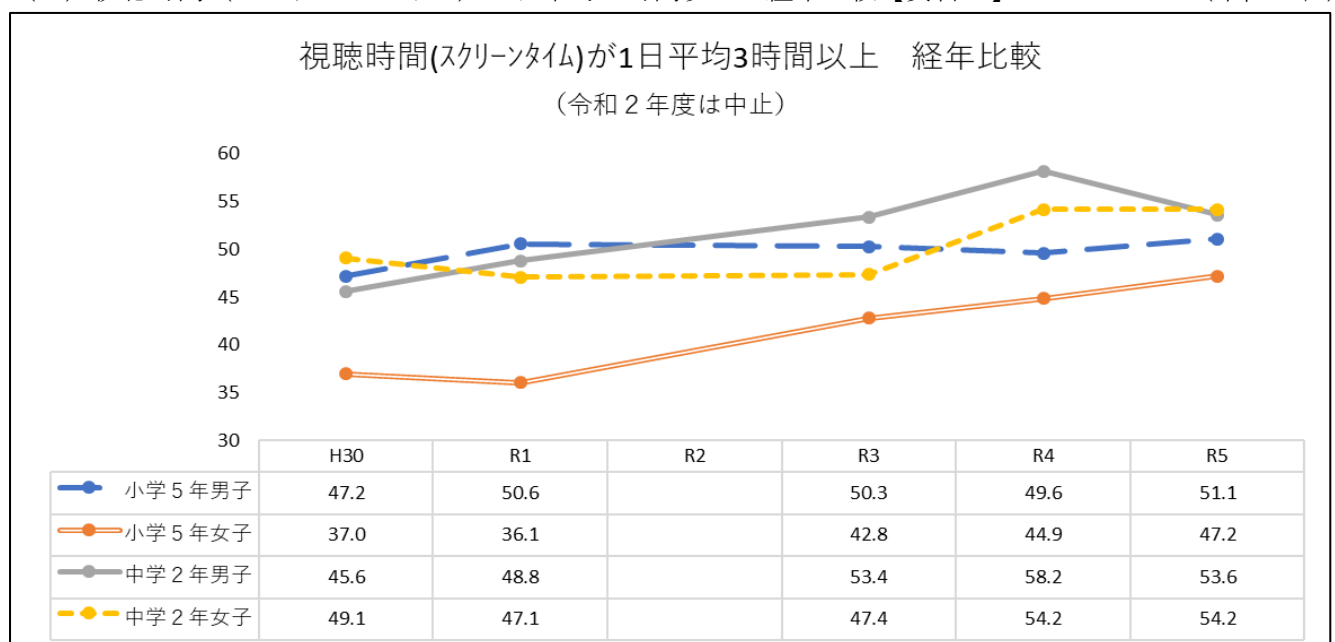
(1) 児童生徒質問紙調査の結果から【資料5】

(単位：%)

小学5年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	93.5	92.9	85.9	85.7
体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	95.9	94.7	90.7	89.9
運動は大切である	大切・やや大切	94.3	93.8	90.4	90.4
中学校進学後も自主的に運動したい	思う・やや思う	89.5	88.8	86.4	83.6
体育の授業以外の運動等の時間	1週間の総時間(分)	608.9	544.6	345.0	321.6
1日の睡眠時間	7時間未満	14.0	12.0	13.9	10.6
平日にテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間(スクリーンタイム)	3時間以上	51.1	42.3	47.2	37.0
中学2年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	87.5	89.4	75.3	76.5
体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	87.9	89.7	78.1	82.7
運動は大切である	大切・やや大切	90.6	92.0	84.4	85.1
中学校卒業後も自主的に運動したい	思う・やや思う	85.3	86.4	75.5	76.5
体育の授業以外の運動等の時間 (部活動等の時間含む)	1週間の総時間(分)	759.1	729.0	580.0	504.3
体育の授業以外の運動等の時間 (部活動等の時間含まない)	1週間の総時間(分)	96.9	113.6	52.7	70.9
1日の睡眠時間	7時間未満	33.1	32.6	48.7	44.2
平日にテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間(スクリーンタイム)	3時間以上	53.6	48.1	54.2	46.9
(中学校進学/卒業後に自主的に運動したいかという質問に対して「あまり思わない・思わない」と回答した児童生徒)					
どのような事があれば運動したくなると思うか(上位3つ)		小中学校の男子		小中学校の女子	
・自分に合ったスポーツが見つかる		42.2		54.3	
・自分のペースで行うことができる		38.1		54.7	
・うまくできるようになる		36.0		37.5	

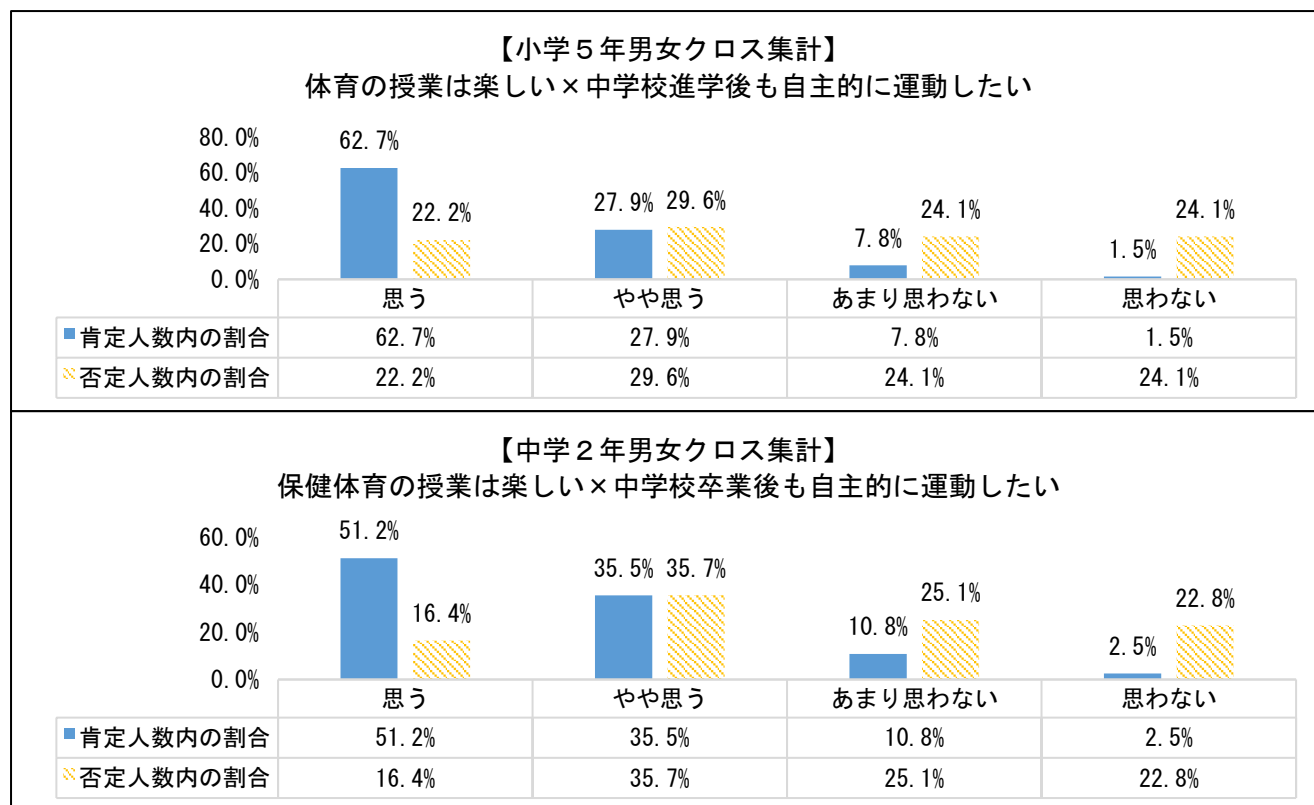
(2) 視聴時間(スクリーンタイム) 1日平均3時間以上の経年比較【資料6】

(単位：%)



(3) クロス集計 (体育/保健体育の授業は楽しい×中学校進学後/卒業後も自主的に運動したい)

(体育の授業は楽しい×中学校進学/卒業後も自主的に運動したい) 【資料7】



- 【資料5】小学5年で「運動が好き」「体育の授業は楽しい」「運動は大切である」「中学校進学後も自主的に運動したい」と回答した男女合計値は全国平均を上回るとともに高い値となっています。中学2年で「運動が好き」「保健体育の授業は楽しい」「運動は大切である」「中学校卒業後も自主的に運動したい」と回答した男女合計値は全国平均を下回っています。
- 【資料5】小中学校とも睡眠時間が7時間未満と回答した割合が全国平均と比べて多くなっています。また、【資料6】テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面の視聴時間(スクリーンタイム)は、引き続き小中学校ともに全国平均を大きく上回っています。経年で比較しても増加傾向にあり、特に小学5年の視聴時間が増えています。
- 【資料7】「体育/保健体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒は「中学校進学後/卒業後も自主的に運動したい」と考えている割合が高くなっています。

(4) 学校質問紙調査の結果から【資料8】

(単位:%)

小学校・中学校	回答	小学校		中学校	
		小田原市	全国	小田原市	全国
体育授業について					
大切にしていること (上位4つ)	楽しさを実感させること	100.0	93.9	80.0	91.0
	できるようになること	29.2	35.9	40.0	29.3
	仲間と協力して課題解決させること	41.7	55.2	70.0	63.7
	運動量を確保すること	25.0	60.0	30.0	48.7
児童生徒同士で話し合う活動 (すべてまたは一部の学年で取り入れている)		100.0	98.7	100.0	98.2
ICT活用頻度 (週1時間以上の活用状況)		25.0	34.9	70.0	49.6
学校全体で体力・運動能力の向上に係る取組					
体力・運動能力の向上に係る取組	行った (一部学年を含む)	79.2	87.1	60.0	53.9

- 【資料8】小中学校の体育/保健体育の学習では、「児童生徒一人ひとりが運動の楽しさを実感すること」や「仲間と協力して課題解決すること」などを意識した授業を行っています。特に「児童生徒同士で話し合う活動」は全ての学校で取り入れています。
- ICTの活用状況は、中学校の保健体育の授業で、「生徒の動きや試合の様子を撮影する」ことに多く利用されており、全国平均と比べて高い水準となっています。
- 「体育以外での体力・運動能力の向上に係る取組」に対する回答では、小学5年では令和4年度の73.7%と比較して高くなっています。中学2年では令和4年度の60%と変わりませんが、全国平均と比較して高い水準となっています。

## 7 課題と今後の取組

令和5年度の体力・運動能力調査の合計点については、児童生徒、男女等で若干の違いはあるものの、全体としては令和4年度と比較して、ほぼ横ばいの結果となりました。しかし、令和元年度以前よりも低い水準が続いており、コロナ禍において、児童生徒が運動不足に陥る環境に変化したことが引き続き影響していると考えられます。

運動習慣等調査では、「運動が好き」「体育の授業は楽しい」「運動は大切である」「自主的に運動したい」と回答した中学2年の割合が、小学5年と比較すると低くなっており、学年が上がるにつれて運動や体育等に対する意欲が低下していると考えられます。一方で、否定的な回答をした児童生徒も運動を通じて「自分に合ったスポーツが見つけられること」「自分のペースで行うことができること」「うまくできるようになること」を期待しており、個々の課題や環境に応じた活動の場の提供やサポート等の取組を行うことで自主的に運動しようとする児童生徒の育成につながると考えています。加えて、体育/保健体育の授業は楽しいと思う児童生徒は、自主的に運動したいと考えている割合も多いことから、児童生徒が主体的に学習に取り組めるような学習課題の工夫や、仲間との話し合い活動を通じた協働的な学びを取り入れるなど、運動の楽しさや喜びを実感できるような授業を行っていく必要があります。また、小学5年の映像等の視聴時間（スクリーンタイム）が増加傾向にあることから、スマートフォンやゲーム機等の使い方が発育・発達に及ぼす影響については、早い段階から家庭と連携した取組が必要になってきています。

学校質問紙調査では、「体育/保健体育の授業以外での体力・運動能力向上に係る取組」について「まったく行っていない」と回答している小中学校もあり、体育の授業以外にも児童生徒が運動に関わろうとする機会の確保に取り組んでいく必要があります。

そのために、市教育委員会では、大学と連携し、体力・運動能力向上指導員を小学校に派遣し、児童に助言・示範することで、意欲的に運動に取り組める環境づくりを行います。また、オリンピック・パラリンピアン等の著名なアスリートを派遣することで、児童生徒が運動に対する関心・意欲を高め、自ら運動を行うだけでなく、見る・支えるといった部分でも運動に親しもうとする態度の育成に努めていきます。教職員に対しても、体力向上プロジェクト会議を開催し、体力・運動能力の向上に向けた各校の取組等について意見交換を行うとともに、情報提供に努め、体力・運動能力の結果だけに捉われることなく、自ら運動に関わろうとする児童生徒の心の育成を図っていきます。